

# 「観光振興による離島航路の利用促進」

北海道運輸局企画観光部 国際観光課 田尻 一樹

本格的な人口減少・高齢社会を迎える我が国において、特に北海道の離島（利尻島、礼文島、天売島、焼尻島、奥尻島）は、全国を上回るスピードで人口減少と高齢化が進んでおり、観光を通じた交流人口の拡大や地域消費の拡大が、持続可能な地域づくりに重要です。

北海道観光は、以前、団体旅行が中心的な位置づけを占めていましたが、国内旅行市場の状況と同じく、団体旅行は2割程度にまで下がってきており、すでに個人旅行が主体となっています。離島においても観光客が年々減少しており、こうした旅行形態の変化に対応しきれなかったことも減少要因のひとつと考えられます。離島への交通機関である離島航路の輸送実績も平成14年度をピークに年々減少しており、事業者の経営状況も厳しく、減船・減便を余儀なくされております。

国内LCCの北海道への本格的就航や国際航空路線の新規開設、北海道新幹線（新函館北斗駅まで）の開業など、北海道観光を支える新たな交通インフラの整備・充実が進められています。これらの新しい交通インフラを最大限に生かし、訪れる観光客に離島の魅力を楽しんでもらえるよう、各々の地域が資源の掘り起こし磨き上げに取組、観光魅力の向上に努めることが重要です。



礼文島から見る利尻富士



高級食材の焼尻サフォーク羊

そのようなことから、北海道運輸局では自治体、交通事業者、旅行会社等と連携して、北海道の離島ツーリズムの推進を図っております。具体的には、公共交通を利用した個人・小グループ向けの魅力ある旅行商品（都市間バス・路線バス＋フェリー＋宿泊）の造成・販売、ビジット・ジャパン地方連携事業による台湾メディア・旅行エージェントの招請、札幌地下歩行空間での5島PRイベントの開催、推進会議の開催、若者による島旅研究会の設置、メディアへの情報発信等に取り組んでおります。



札幌チカホPRイベントの来場者

これまでの各島の取組に加え、5島連携の効果的な取組により平成25年度の離島航路の輸送実績は、対前年度1.9%増（12,567人）となり、平成14年度以来11年振りの増加となっております。

平成26年度においても、各島の独自の取組に加え、「北海道離島ツーリズム推進会議」が主体となり、個人・小グループ向けの島巡り旅行商品の造成、若者の島旅を促進するための「娘さん応援モニターツアー」の催行、ビジット・ジャパン地方連携事業（メディア・旅行エージェント招請）を活用し台湾からの旅行者を取り込むための旅行商品の造成、ホテルのレストランでの離島フェアの開催等を実施することにしております。また、これらの取組を新聞・テレビ・旅行雑誌等に取り上げて貰うことで、魅力ある離島を露出し、旅行先に選んで貰うことを狙っております。これらの取組に対する予算措置が無いことから、全て関係者の連携による取組となっております。

北海道運輸局は、関係者と連携を図りながら、引き続き観光振興による離島航路の利用促進に取り組んでまいります。

